

開幕まで1年 広がるアクセス

大阪・関西万博 2025

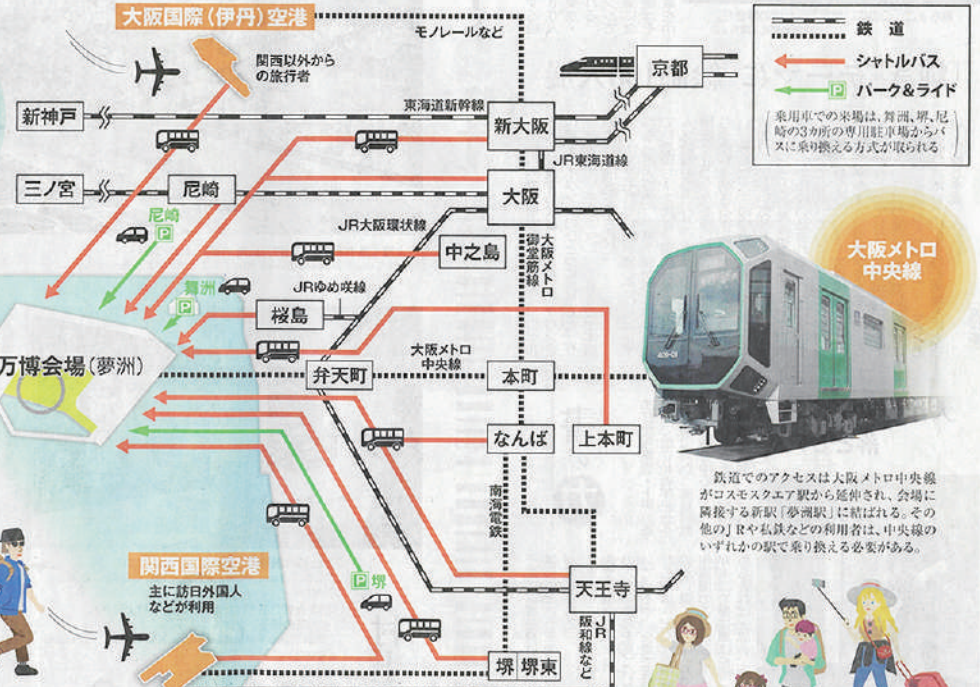
2025年大阪・関西万博の開幕まで13日であと1年となる。会場の人工島「夢洲」(大阪市)への主要なアクセスは、鉄道とシャトルバスを想定。これに船などの水路も予定する。万博を運営する日本国際博覧会協会(万博協会)は原則として公共交通機関での来場を呼びかけるが、自家用車を夢洲から離れた駐車場に止めて会場に向かうパークアンドライド方式も導入する。

水路

水都・大阪をPRするため、大阪市中心部や兵庫県の神戸空港、淡路島など会場の夢洲をつなぐ水路も導入される。若谷産業が本水を活用する燃料電池船を運航する計画もある。

④神戸港・神戸空港・夢洲
⑤淡路島・夢洲
⑥大阪市中心部・夢洲
⑦夢洲周辺を遊覧
⑧淀川・夢洲
⑨堺日港・夢洲
⑩⑪は調整

夢洲では桟橋からシャトルバスで会場に向かう
中型船桟橋(万博期間中のみ設置)
小型船桟橋
シャトルバスルート



主要駅・2空港から専用バス

万博会場への主要ルートのうち、鉄道は大阪メトロ中央線がロスモスクエア駅から夢洲駅まで延伸され、これが会場に直接乗り入れる唯一の鉄道路線となる。

中央線の運行本数は、現在の1時間あたり16本から24本に増強する。JRゆめ咲線も9本から12本に増やし、同線終点の桜島駅からはシャトルバスが運行される。

シャトルバスでは、建設中の高速道路「淀川左岸線」を新大阪駅や大塚駅と会場を結ぶための専用道とする。バスは大塚・兵庫の主要な駅から運行するほか、大阪国際(伊丹)空港と関西国際空港からも直行便を運行する。事前予約制とし、利用者が全員が乗れるようにする。

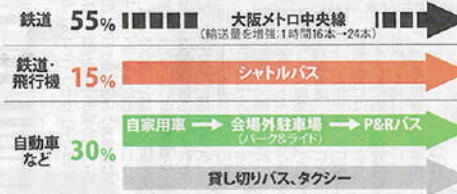
自家用車に関しては、舞洲(大阪市)と堺市、兵庫県尼崎市に設ける専用駐車場に停車。シャトルバスで会場に運ぶパークアンドライド方式とする。

万博協会は万博の開催期間中、計約2820万人の来場を見込む。ピーク時は1日に22万7千人の来場を想定。内訳は鉄道が12万4千人(55%)、シャトルバスが3万5千人(15%)、マイカー・タクシー・団体バスなどの自動車などが6万8千人(30%)としている。



各主要駅や空港からはシャトルバスが運行される。JR桜島駅からの料金は片道350円になる予定。事業者は電気自動車(EV)バスの導入を想定しており、自動運転区間の設定も検討されている。

ピーク時に1日22万7000人の来場を想定している大阪・関西万博



万博会場(夢洲)

2025年 大阪・関西万博 開催まであと1年

—「いのち輝く未来社会」の実現に向けて—

Iwatani

地球の恵みを、社会の望みに、
エアウォーター

eco rika エコリカ

学校法人 追手門学院

関西で地域をつなぐ
大阪シティ信用金庫

ひろげよう創造と連携
大阪府経営合理化協会

奥村組 OKUMURA CORPORATION

関西大学 KANSAI UNIVERSITY

関西学院大学 Kwansei Gakuin University

Let's greet each other with a SMILE
滋慶学園グループ

住友電工 Connect with Innovation

DAIHEN たいへん

Daiwa House

TAKARA BELMONT

Be a Great Small 中小機構

長谷グループ HASENO

PFI 株式会社 フォーマーズ

立命館大学

RIVER リバー産業株式会社

(五十音順) (企画・制作) 産経新聞社メディアビジネス局